



# 中国漢方通信



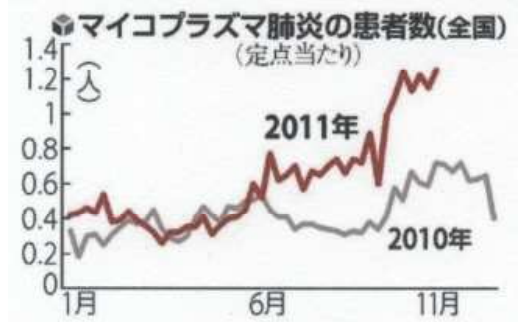
妙泉堂薬局



## マイコプラズマ、RSウイルス、インフルエンザ・・・ 感染症に警戒の季節

今秋、マイコプラズマ肺炎やRSウイルス感染症などの患者が増えています。

国立感染症研究所が全国約500の医療機関（定点機関）の報告をまとめたところ、11月第2週のマイコプラズマ肺炎の平均患者数は2001年以降の最高値を記録しています。



### \* マイコプラズマ肺炎とは？

マイコプラズマという細菌による呼吸器系感染症。症状が風邪に似ていて、外来ですぐに診断するのは難しく、重篤化してしまうケースもある。

天皇陛下や皇太子ご夫妻の長女、愛子さまも一時、感染の可能性があると言われた。乾いた咳や発熱、頭痛などの症状のほか、重篤になると脳炎などを引き起こす場合もある。

ワクチンはなく、治療は抗生物質が中心だが、薬が効かない耐性菌の増加が拡大の要因になっている可能性もある。今年はこれまで使われてきたマクロライド系の抗生物質が効かないケースが多い。

### \* RSウイルスは 乳幼児に多く

RSウイルス感染症は乳幼児が感染しやすい呼吸器系感染症。

多くは鼻水や咳、のどの炎症などで治まるが、乳幼児では重篤な肺炎や細気管支炎を引き起こす場合もある。

免疫ができにくいいため、何度も感染する可能性がある。ワクチンや抗ウイルス薬はなく、酸素吸入や点滴などの対症療法が中心である。

今年は全国的に例年を上回る患者数が報告され、増加傾向が続く。今年は6月頃から都市部を中心に感染が広がり始めた。新規患者数は10月中旬にいったん減少したものの、再び、増加傾向に転じた。もともと冬にピークを迎える感染症なので、12月の動向が気になる。

### \* インフルエンザ 年明けに流行か？

今のところ確認されているインフルエンザウイルスのほとんどは香港A型。しかし、感染研では、昨季と同様の傾向をたどれば、年明け以降に新型インフルエンザH1N1型が流行する可能性もあるとしている。



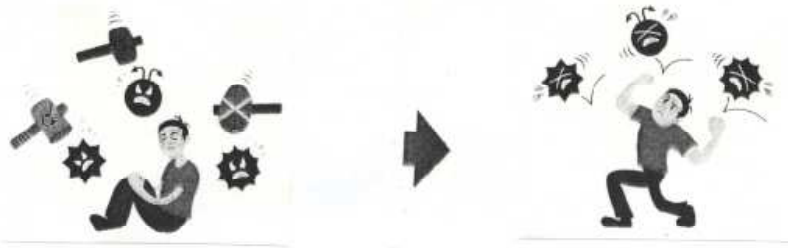
いずれの感染症も予防はうがいや手洗い そして、板蓋茶・インターパンチです。

## 体を病原体から守るためには・・・

免疫（感染症などに対して抵抗力を示す能力）を上げることが一番大切です。

疾病時に薬剤を投与するやり方から・・・

生体防御強化へ



そのためには体内のインターフェロンを産生させる『インターパンチ』がお勧めです。

インターフェロンは人間がウイルスなどの感染を受けたときに、体内で作るタンパク質の一種です。抗ウイルス作用・抗腫瘍・抗アレルギー作用をもつ免疫機構の伝達物質（サイトカイン）の総称です。ふだんは血液中に少量存在していますが、必要が生じれば瞬時に必要量が出てくるのが自然の状態です。必要に迫られたときにたくさん出てくれないと、ウイルスや細菌などに侵され、細胞の機能が低下してしまいます。そこで、体内のインターフェロンの量を増やす『インターパンチ』が有効なのです。

インターパンチは四種のハーブ、カボチャの種子・スイカズラの花・オオバコの種子・ベニバナの花とビフィズス菌・ラクチュロースからできています。



カボチャの種子



スイカズラの花



オオバコの種子



ベニバナの花



そして、直接的にウイルスを撃退するには**板藍茶**です。

板藍茶はアブラナ科の植物「ホソバタイセイ」の根。漢方の抗生物質とも言われ、抗菌作用と抗ウイルス作用、解熱作用、解毒作用に優れた生薬です。ただし、妊娠中の方は避けた方が良いでしょう。妊娠中の方には**たんぽぽ茶**をお勧めします。



感染症の予防は

**うがい・手洗い・板藍茶・インターパンチ**

### ！感染してしまったら

早めに漢方薬で対応しましょう。**板藍茶・インターパンチ**に加え、『**白花蛇舌草**』が良いでしょう。そして、睡眠を充分にとって安静にしてください。ウイルスと戦う体力を温存し、消化のよい食事、特にタンパク質やビタミンなどの栄養を補給するようにしましょう。熱も出るので、汗をかいたらこまめに下着などを替え、保温を心がけ

ましょう。ウイルスに感染してから2日後に症状が強くて、発症後、5日間ほどでウイルスは排出されます。熱が下がると、食欲が増し、体調も整いますが、ウイルスがまだ排泄されていることが多いので、咳エチケットなどの感染対策をしましょう。発症後7日間はマスクを常時着用しましょう。咳が長引く場合は、発症後7日間を過ぎてもマスクを着用しましょう。

